



刊 夕  
行發日七十月八  
日休日翌日祭限日

### 子守唄 二幕

永井善太郎

櫻並木の堤防  
樹蔭に緑色のベンチがあ  
る。陽の光りはうららかに

(開幕の歌)  
ねんねんよう ねんねん  
よう  
坊やお守はごへいいた  
あの山を越えてお里いた

お里のおみやに何ももた  
でんでん太鼓に笙の笛  
ねんねんよう ねんねん  
よう

野田玲子、乳母車を押し  
ながら、静かな足どりで  
現れる

坊や、うつと寝ちやつたわ  
坊やのかんかん蟲つたら  
ありやしない

玲子、乳母車を離れると  
ベンチに坐つて雑誌をひ  
らく。間もなく坊やの泣  
き聲

ばうや うあああああ  
あん  
玲子(駆けよつて)いい子  
いい子。泣いちゃ駄目。

ね、坊やは、お側口ちや  
んですよお側口ちやんは  
泣いちゃ駄目

坊や、うあああん、うあ  
あん

玲子、子守唄をうたふ。

ねんねん小山の小兎は  
なせにお耳がお長いぞ  
坊や うあああん。うああ  
あん

唄 ねんねん小山の小兎は  
なせにお耳がお長いぞ  
坊や うあああん。うああ  
あん

歌しどろもどろに亂れて  
極めて拙い

失戀と妹  
入山 静波

私はペン持つ手を止めて  
そつと妹の髪をのぞき  
こんだ

國にてがらを  
立てられて  
はまれの高い  
方といふ  
ごんごんお子さん  
さびしから  
聞いて候らも  
かなしいな

護良親王六百年祭  
珠雲 小野務中  
玉葉挺身親衛軍  
幽房何頼掃妖雲  
星霜六百夢驚  
赫奕當年王佐勳

潮聲観静抄帳  
席上互選  
除春 五月旬會

防風林の砂すじめる  
除春かな 皓月  
磯山も街も影のなかな  
除春かな  
雨の夜の花に除春をな  
つかしむ

街の灯へ除春の田面句  
ふなり 石城  
煙草くゆらし雨の狭庭  
の除春哉  
舟入れる除春の岸や芦  
葉すれ 眞砂常  
木々はやくくらき影も  
つ除春かな 松堂  
散りのこる花に除春を  
わびにけり  
遠山の霞はよかき除春  
かな

永田中將  
詩話童  
永田鐵山  
中將が  
きよにお亡くなり  
なされた  
きのふがた  
新聞に  
大きく寫眞  
載りました  
てくれたのもこの妹なの  
だ

誰が殺したか  
今野賢三作  
龍造寺磨齋  
第二の殺人(三九)

星野の訪れる聲に應じて  
出て来たのは正常の妻の君  
子であつた

御主人は御在宅ですか  
わからぬのですから……  
お話なさらうと警視廳へ  
たの居所をさがしたので  
對にありません、つまり私  
の依頼された任務と、いまの  
實は、あなた自身の身の保  
護といふことも伯爵閣下の  
お言葉の一つでしたから  
「さうですか、しかし、父  
がなぜ僕を保護させなけれ  
ばならぬのですか」  
「正常は不審さうに星野の  
顔を見つめて反問した  
「そこが、むしろ、あなた  
の方で充分におわりのこ  
と、思ひますが」  
「なぜですか？僕は父から  
の保護など、おことわりし  
ますね」  
「ところで正常さん！私か  
こへ来ると入口からあな  
たのところを、うかがつて  
来た男がありました、見る  
とそれが警視廳の花村とい  
ふ刑事で知つてゐるもので  
すから、どういふわけかと  
さかつてみました、すると  
正常さん！あなたは今ある  
嫌疑の眼をもつてみられて  
ゐますよ！」  
「なに僕が嫌疑、そ、そん  
な馬鹿な……」  
かう言ひすた正常の顔  
色は、ひどく青くなつて見  
えた

潮聲観静抄帳  
席上互選  
除春 五月旬會  
防風林の砂すじめる  
除春かな 皓月  
磯山も街も影のなかな  
除春かな  
雨の夜の花に除春をな  
つかしむ  
街の灯へ除春の田面句  
ふなり 石城  
煙草くゆらし雨の狭庭  
の除春哉  
舟入れる除春の岸や芦  
葉すれ 眞砂常  
木々はやくくらき影も  
つ除春かな 松堂  
散りのこる花に除春を  
わびにけり  
遠山の霞はよかき除春  
かな

誰が殺したか  
今野賢三作  
龍造寺磨齋  
第二の殺人(三九)  
星野の訪れる聲に應じて  
出て来たのは正常の妻の君  
子であつた  
御主人は御在宅ですか  
わからぬのですから……  
お話なさらうと警視廳へ  
たの居所をさがしたので  
對にありません、つまり私  
の依頼された任務と、いまの  
實は、あなた自身の身の保  
護といふことも伯爵閣下の  
お言葉の一つでしたから  
「さうですか、しかし、父  
がなぜ僕を保護させなけれ  
ばならぬのですか」  
「正常は不審さうに星野の  
顔を見つめて反問した  
「そこが、むしろ、あなた  
の方で充分におわりのこ  
と、思ひますが」  
「なぜですか？僕は父から  
の保護など、おことわりし  
ますね」  
「ところで正常さん！私か  
こへ来ると入口からあな  
たのところを、うかがつて  
来た男がありました、見る  
とそれが警視廳の花村とい  
ふ刑事で知つてゐるもので  
すから、どういふわけかと  
さかつてみました、すると  
正常さん！あなたは今ある  
嫌疑の眼をもつてみられて  
ゐますよ！」  
「なに僕が嫌疑、そ、そん  
な馬鹿な……」  
かう言ひすた正常の顔  
色は、ひどく青くなつて見  
えた



磐城代表的の土産品  
山。靈峰羊羹。里。柿羊羹  
海。のり羊羹。各一本金十錢  
右美麗三本箱入 特價三十錢  
御旅のお出入に便宜な手頃のお土  
産品です  
小買御希望の方お申下さい。  
製造發賣元 小川郷前  
平屋賣店

高久病院  
平町紺屋町 電話六八番  
醫學士 吉田久雄  
高島屋  
洋服大特賣  
男女用夏服豊富に取捕  
専門耳鼻咽喉科  
高柳耳鼻喉科醫院  
醫學博士 高柳博明  
電話三三六  
平町紺屋町  
小兒科  
志賀醫院  
電話一六二番  
平町南町五〇番地  
洋服大特賣  
高島屋  
洋服大特賣  
男女用夏服豊富に取捕  
専門耳鼻咽喉科  
高柳耳鼻喉科醫院  
醫學博士 高柳博明  
電話三三六  
平町紺屋町  
小兒科  
志賀醫院  
電話一六二番  
平町南町五〇番地

### 惜や福商に敗れたが

## 二百繼泳は断然一着

### 仙台の大会に 警中選手力闘

二高主催第五回東北北海△四百里自由型決勝 4 小中 警中 優勝  
道中等校競泳大会第二日は 金銀  
昨十六日午前九時半から 警中 自由型決勝 1 若松  
△二百里自由型決勝 2 佐々木  
△二百里自由型決勝 3 佐々木  
△二百里自由型決勝 4 佐々木  
△二百里自由型決勝 5 佐々木  
△二百里自由型決勝 6 佐々木  
△二百里自由型決勝 7 佐々木  
△二百里自由型決勝 8 佐々木  
△二百里自由型決勝 9 佐々木  
△二百里自由型決勝 10 佐々木

### 徹底的腐敗濁濁の

## 廓清浄化を誓ふ

### 廿五日平町で選肅祈願祭

講演会による選肅運動求むる 縣社子鏡倉神社々頭  
を率へて平町では既報の如く選肅祈願祭を執行代表者  
は十七日午後一時から委の誓詞あると  
員會を開き更に各區に懇談  
會を開く外目下縣當局に於  
て作製中の宣傳ポスターの  
出来上り次第各戸に配ら  
布、文書による宣傳に入る  
が向來二十五日午前十時  
から町内全有権者の集會を  
行はしむる

### 全力作を掲げて

## 書道展開會

### 第二校で參觀人多數

平町聯合書道會主催の全國  
書道展開會は昨報の如く今  
十七日から三日間、第二校  
に開會中であるが、合計三  
會場十三室約三千點の出品  
に對し今朝海社主幹、東一  
方書道會審査員松本芳翠氏  
審査の上入賞を決定したが、  
當天にも拘らず朝來參觀者  
陸續として盛況を呈した、  
尙ほ町内その他有志出陣の  
左記参考品に多大の興味を  
ひいてゐる

### 資金を準備して

## 秋繭を待つ市場

永戸三阪の一方部のみならず警告を發した、尙今秋繭  
まづてゐる郡内の夏繭は種すべき雲英種子は来る  
目下出廻最盛季も過ぎて漸二十五日迄申込まれたとい  
終末に近づいてゐる  
これに次いで秋繭(掃立  
豫想六萬二千五)から十  
月に入り出廻る晩秋繭  
(同約十萬五)

### 涙ぐましい動機で

## 大野に青年會館

### 故園員の寄附を種に建設

大野村大字戸田青年分團では模範分團員野口武雄  
君が去る六月中病歿に際し自分の死後受取べき  
生命保険金から百圓を同分團に寄附を遺言あり  
此種金の金が入つたので故人の篤志を永遠に傳ふ  
爲之を基本として五百圓の豫算を以て同村社境  
内に青年會館を建設する事になり全團員の努力奉  
仕で近く工事に着手する

### 平稅務署納

## 稅督勵施設

### 近各町村と協議

平稅務署では唯野署長が自  
ら陣頭に立ち従事ボスター  
ら陣頭を率へて、講義等により納稅成  
績の向上を圖つて来たが更  
に、尙同署でさき々集  
した優良標語左の如し  
(一)完納の美風で磨  
吾が郷土 (二)信用は  
先づ完納から (三)同  
稅與せむが村 (四)神  
の行程たり、東外ノ濱に  
據らんか、又十餘日、其  
の中央に當りて遙に關門  
を閉き、名づけて衣ノ關  
と曰ふ、宛ら函谷(支那  
にある要關)の如し、左  
は高山に隣し、右に長途  
を顧み、南北同じ峯嶺  
を連ね、產業亦た海陸を  
兼ね、三十餘里の險並に  
櫻樹を植ふ、四五月に至  
れば殘雪消ゆることなし  
仍つて胸形激と號す、麓  
に流河ありて南に落つ、

### 白水阿彌の第二回修理

## 郷土の史的時事解説

### 勿來生

白水阿彌の特別保護建造物に内  
壇安置五佛像國費各指定に就て  
二品(願願)、安格願時が  
衣川の遺跡を歴覽し給ふ  
郭土空しうして殘り、秋  
草領すること數十町、礎石  
何づくにかある、菖菖埋

### 死を欣求した藝妓

## 死を欣求した藝妓

が架設に就いて昨年末末上  
下流兩派に分れ悶着を續け  
てゐたが此程縣土木課木村  
技師其他地元有志が現場で  
會見の結果、同字内に一ヶ  
所設置する事に決定解決、  
従來の水争ひ等も自然解消  
するに至つた

### 鮮人が誘拐

## 鮮人が誘拐

夫から搜索願  
好間村大字上好間松田飯場  
内島野長松幸喜多子(三三)は  
去る五月月中長男徳治(八)と  
産養種を時季により搾油處  
分分すべく同大字内に搾油處  
を設置した

### 濡れ鼠の箕輪和夫君

## 濡れ鼠の箕輪和夫君

國は千葉で尋常二年生  
叔母の家を忘れ迷ひ子  
のらしい、目下同署で保  
護の上各方面を問ひ合せ  
中

### 色川氏非業の死

## 色川氏非業の死

昨日自社工場の椿事  
平町才地小路色川木材株式  
會社社長色川勝三郎氏は今  
六日午後四時三十六分自  
宅裏の製材工場で裁斷機に  
入つて俄然不慮に陥り此の  
分で持歸すれば水稲の生育  
にも相當影響するもので平  
當局では今十七日關係者に  
對し當面の對策に關し留意  
し灌漑水にも萬遺憾なきや  
氏は同町區長で茨城縣北  
の行程たり、東外ノ濱に  
據らんか、又十餘日、其  
の中央に當りて遙に關門  
を閉き、名づけて衣ノ關  
と曰ふ、宛ら函谷(支那  
にある要關)の如し、左  
は高山に隣し、右に長途  
を顧み、南北同じ峯嶺  
を連ね、產業亦た海陸を  
兼ね、三十餘里の險並に  
櫻樹を植ふ、四五月に至  
れば殘雪消ゆることなし  
仍つて胸形激と號す、麓  
に流河ありて南に落つ、

取調中  
十八日 (小名瀬酒所調査)  
日 四、五、七、月、後、八、二、四  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二  
日 六、三、五、月、後、九、〇、二

### 増車御披露

陸の王者として定評ある流線型タツ  
チブラザース一二輛増車致しま  
した。タクシーを御使用の際は新車  
揃の居りタクシーに御用命を御待  
致して居ります。  
大型貨切専門車も御座います。

### 尼子タクシー

電話六四〇

### 色川木材株式會社

父勝三郎儀本日午後四時三十分死  
去仕候間此段謹告仕候  
追而葬儀色川木材株式會社葬ヲ以テ來  
月十九日午後一時自宅出棺九品寺ニ於テ  
告別式相替可申候  
昭和十年八月十六日

親戚 色川 光一  
長子 澤田 治吉  
次子 金成 慶太郎  
友人 諸橋 國正  
代官 橋山 松男

當會社取締役社長色川勝三郎儀本  
日午後四時三十分逝去セラレ候間  
此段謹告仕候  
追而葬儀色川十九日午後一時社葬ヲ以  
テ執行可申候  
昭和十年八月十六日

### 色川木材株式會社

當會社取締役社長色川勝三郎儀本  
日午後四時三十分逝去セラレ候間  
此段謹告仕候  
追而葬儀色川十九日午後一時社葬ヲ以  
テ執行可申候  
昭和十年八月十六日